

令和5年度 教職員による教育活動の個人評価

学校教育目標「ふるさとを愛し、未来に夢をもち、たくましく生きる天神山っ子の育成」実現に向けて

なぜ！教職員アンケートに取り組むのか？

- ・「令和5年度 天神山小学校 学校経営計画」で提示された目標とそれを達成するための取組を意識するとともに、自らの進捗状況を確認するために行います。
 - ・子供の成長・幸せのため、我々の技量を高めるため、そして「天神山でよかった！」を実現するために、よろしくお願いします。
- (4:できている 3:だいたいできている 2:あまりできていない 1:できていない)

		評価指標	平均1学期	平均2学期	平均3学期
1 教育目標	1	「天神山でよかった」を高めるため、教育目標である、「ふるさとを愛し、未来に夢をもち、たくましく生きる天神山っ子の育成」を意識し教育活動を行なっている。	3.3	3.3	3.3
2 経営方針	2	児童一人一人の人格を形成するため、地域に根差した学校経営を行い、「天神山でよかった」「七尾でよかった」と感じ満足できる学校を目指している。	3.2	3.3	3.3
3 中・長期的目標 ①子供が、「天神山で学んでよかった」と感じる学校 ②保護者が、「天神山で学ばせてよかった」と感じる学校 ③職員が、「天神山で働いてよかった」と感じる学校 ④幼保園が、「天神山に入学させて良かった」と感じる学校	3	「安全・安心な学校」にするため、児童の居場所があり、心の安全・安心が保てる居心地のよい学校づくりに向け個別に対応している。	3.4	3.5	3.3
	4	「安全・安心な学校」にするため、「自分の命・体を自分で守る」という態度をはぐくむ防災・安全教育を推進している。	3.3	3.5	3.7
	5	「明るく楽しい学校」にするため、気持ちのよい先あいさつと喜びの歓声がある学級や授業を意識している。	3.4	3.4	3.4
	6	「学びを喜ぶ」学校にするため、「分かる楽しい授業」「活動量のある学び」「自己決定の場がある、満足した学び」を実現する指導の充実を行っている。	3.2	3.3	3.3
	7	「学びを喜ぶ」学校にするため、授業改善による個別最適な学び“with GIGA”を意識した指導の充実を行っている。	2.8	3.1	3.1
	8	「学びを喜ぶ」学校にするため、生徒指導の実践上の4つの視点を生かした指導を行っている。 (①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成)	3.1	3.4	3.4
	9	保護者に寄り添い、保護者目線で迅速かつ適切な情報を提供できる学校を意識している。	3.2	3.3	3.5
4 重点項目とめざす姿 「自ら学びを求め、考え、判断し、仲間と <u>学びを喜ぶ</u> 児童を育てる」	10	「学びに向かう力を高め、主体的に考え、判断し、表現する児童を育てる」ことを意識している。	3.2	3.2	3.3
	11	「子供と心と心が通じ合った授業…目と目が合う授業」を意識している。	3.1	3.5	3.5
	12	組織の一員として自覚し、「責任感と協調性がある教師」を心掛けている。	3.2	3.4	3.5
	13	基礎学力（基礎的・基本的な知識・技能及び学び方）の向上を図っている。	3.2	3.3	3.4
	14	学力の向上のため、学力層（C層）に着目した授業づくりを意識している。	3.0	3.2	3.3
	15	学力の向上のため、課題解決のための対話的な学び（ペア・グループ→全体）を取り入れた授業スタイルを推進している。	3.1	3.3	3.3
	16	学力の向上のため、学びの中心で話し合いの場を設定している。	2.9	3.2	3.4
	17	学力の向上のため、児童の話す力習得に向けて、話し方・聴き方の指導を行っている。	3.1	3.3	3.5
	18	いじめ・不登校の未然防止、早期対応のため、変化を見逃さない体制による全員での取組（周知徹底及び役割連携）を徹底している。	3.2	3.3	3.4
	19	いじめ・不登校の未然防止、早期対応のため、保護者目線による保護者への丁寧な周知（児童理解）を迅速に行っている。	3.3	3.3	3.3
	20	ふるさと七尾 SDGs教育を推進している。	2.8	3.1	3.2
	21	「天神山でよかった」を増やすために、具体的にできたことを意識する指導を行っている。 ・できることが増えてよかった ・勉強が分かるようになってよかった ・友達に助けてもらってよかった ・低学年のお世話ができてよかった ・高学年として学校をリードできてよかった ・本がいっぱい読めてよかった ・休み時間いっぱい遊べてよかった	3.3	3.3	3.4

	前学期比0.3以上+	・1学期低水準だった7「個別最適な学び"with GIGA"」、16「学びの中心で話し合いの場」、20「ふるさと七尾 SDGs教育」のいずれも2学期に0.3ポイント向上している。これは1学期に低く
	前学期比0.2+	評定した職員が主体的に業務に取り組み、自身の向上を実感したためと考える。
	低水準：3.0未満	・4「防災・安全教育」が学期ごとに向上している。本校はコロナ禍の時から校内の感染症対策と指導を徹底してきたと共に、職員が震災の経験を安全・安心な学校づくりに向けて主体的に生
	前学期比低下	かそうと捉えているためと考える。 16「学びの中心で話し合いの場」、17「話し方・聴き方の指導」が学期ごとに向上している。これは職員一人一人が「話し合い活動」に重点を置いた研究を意識して取り組んだためと考える。 ・3「居心地のよい学校づくり」が3学期に低下している。これより普段から分かる授業を行いながら、生徒指導の4つの視点を取り入れ、一人一人の居場所を大切にした学級づくりを行っていく必要がある。